



支え合いとおもてなし」という理念で、地域づくりに携わってきた同協議会の24年間の活動を紹介。これまでに、地区内の清掃活動や手づくりの敬老会、機関誌の発行などを行い、地域おこしと共に住民同士のつながりを深めてきたことを報告しました。

また、今後の課題として、少子高齢化が一段と進み、集落機能の低下や後継者不足をあげ、「こんな時こそ、地域住民がお互いに考え、支え合っていくことが大事。これからも住みやすい地域づくりを目指したい」と話しました。

**それぞれの役割を把握し 尊重し高め合うことが重要**

次に、町地域おこし協力隊員の石村勇人さんが、日野町での2年間の活動の振り返りと、今年立ち上げた「一般社団法人 里鳥」で行っている地域おこしや世代間交流などの活動を紹介しました。

それらの活動を通し、『互いに支えること』『地域づくり』について、石村さんは「それぞれの役割を把握することが大事。その人に

合ったことを把握し、お互いを尊重し高め合っていく。そのことがお互いを大切にした暮らしやすい社会の実現につながると思う」と話しました。

また、日野町のこれからの在り方について、「今の日野町はとてもいいと思う。高齢者が助け合ったり、若い人も移住してきたりしている。しかし、後継者など若い力が足りないのが課題」と石村さん。そのため

に、「Uターン者やUターン者を呼び込み、引き継いでいくことが重要。自分はその役割を担っていききたい。そして、それを持続し未来の子どもたちにつなげていきたい」と話しました。

シンポジウムでは、お互いの好きなことや得意なことを理解し、お互いを生かしていくことが大切であると確認されました。

**▼各学校の取り組み**

**【根雨小学校】**

●ハンセン病の学習を通して  
10月2日、荒井玲子さん（大山町）を招き、「ハンセン病」について学習しまし

た。荒井さんは夫が国立感染症研究所ハンセン病研究センター（旧国立らい研究所）に配属になって「ハンセン病」と出会いました。平成13年に「長島と鳥取を結ぶ会」を作り、啓発活動や入所者と交流する訪問交流会を実施されています。この学習は、「人権」をテーマに黒坂小学校の6年生も一緒に進めて行いました。



「ハンセン病」についての学習

児童からは、正しいことを知ることとはとても大切なことだという意見が多く出てきました。自分が確かめたり本当に見たりしたわけではないのに、知らず知らずのうちに間違った考えや見方をしてしまうことがあります。また、相手を理解するためには何度も話し合ったりしながらしっかりとした関係づくりをしてい

かなければなりません。偏見でものごとを見ないようになり、しっかりとした関係づくりをしたりすることを、学校も保護者の皆さんも地域の皆さんもしていかねればと感じました。

「自尊感情」という言葉があります。これは簡単に言えば、自分のことを大切に肯定的に思える感情のことでしょうか。この「自尊感情」を高めていくことに、人権教育の視点を当てていくことが必要なのではないかということについても、この学習を通して考えさせられました。

**【黒坂小学校】**

人権感覚を高め、人権問題を解決するための土台となる力を育てるために、本年度は次のような重点的な取り組みをしています。



日野高校生徒とサツマイモ掘り交流

●仲間づくり

学級経営や縦割り活動での達成感のある活動・豊かな体験による人間関係づくりを通し、認め合い、励まし合う仲間づくりを目指しています。

●校内人権教育推進月間

10月を推進月間とし、人権教育の視点に立つ学習を実施し、人権意識の高揚と差別解消へ向けての展望と意欲を持たせます。

●確かな学力の育成

「関わり合いながら主体的に学び続ける子どもを育成」言語活動の充実を通して、「言語活動の充実・ユニバーサルデザインの授業づくり・学習習慣の定着・一人一人を大切にしたい仲間づくりを手立てとして、確かな学力を身に付けた子どもを育成します。

【日野中学校】

●人権弁論大会

日野中学校では、毎年10月ごろに学級ごとに人権弁論の発表会を行っています。一人一人の発表に対して、どのように感じたのかを返すことで意見を深めるようにしています。この取